

令和2年度三重県立公衆衛生学院学校関係者評価結果報告書

令和3年4月

1 学校関係者評価の実施方法及び公表について

学校関係者評価の実施にあたって、令和3年3月18日に三重県立公衆衛生学院学校関係者評価懇話会を開催し、令和2年度を評価対象期間とする「令和2年度三重県立公衆衛生学院自己評価結果」について説明し、自己評価結果に対するご意見をいただきました。

評価結果は本報告書として取りまとめ、今後の教育活動や学院運営の改善に活かし、これらの質の向上に努めることとします。

2 学校関係者評価員

所属	役職名	氏名
公益社団法人三重県歯科医師会	常務理事	福森哲也
特定非営利活動法人三重県歯科衛生士会	会長	丹羽友美
三重大学大学院医学系研究科生命医科学 専攻基礎医学系講座幹細胞発生学分野	教授	山崎英俊
三重県立公衆衛生学院後援会	会長	杉崎英樹

3 評価項目等に対する意見

別紙のとおり

別紙

	学校関係者評価員の意見	今後の取り組み等
重点目標	重点的に取り組む目標を国家試験合格率だけにするのではなく、社会的な活躍をめざす等の目標も加えてはどうか。	合格率を目標にすることも重要であるが、学生の歯科衛生士としての活動の意欲を高めるため、検討したい。
(1)教育理念・目標	ほとんどの看護系は4年制に移行し、国家試験の内容も全身疾患を分かっている人材を求めていることから、4年制への移行を検討すべきではないか。	4年制への移行は、現場のニーズと学院施設の制約があり、長期的な課題である。
(3)教育活動	教員の資質向上のための研修等に対するサポートが必要。	引き続き、協議会等が実施する研修会の受講など職員の役割に応じた研修を受講していく。
(6)教育環境	新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインで授業を行ったがスムーズにでき、きちんと環境を整えていた。	引き続き、コロナ対策を徹底するとともに、対応できる環境整備に努めていく。
(7)学生の受入れ募集	受験倍率が増加している。	引き続き、高校訪問等に注力し、受験生の確保に努めていく。
(9)法令等の遵守	学校評価について公表の仕方を検討すべきではないか。	今後、どのようにするか検討する。